

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>市民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 「グローバルに活躍する」人間の育成</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力（5K力）の育成</p> <p>4 バランス感覚のある、人間としての総合力をはぐくむ教育の推進</p>	<p>（成果）</p> <p>1 少人数授業を実施し、きめ細かな指導や専門性の高い授業展開を通して、学力向上を図ることで、学力推移調査の結果に結び付けることができた。また、主体的な学びの育成に向け、タブレットPC等の活用を進めるとともに、オンラインによる授業や学活を実施したり、行事の動画配信を行うなど、ICT活用を積極的に行えた。</p> <p>2 総合的な学習の時間「みらい楽」では、地域理解を深める観点から社会の抱える課題の解決に向けての取組など、実際に、企業や行政に要望や提案をするなど主体的に地域や社会と関わり、発信しながら学びを深めることができた。さらに、探究活動の成果発表として報告会を実施し、着眼点や手法等を伝えることができた。</p> <p>3 部活動加入率は高く、高校と連携しながら活動した。その成果として、公式試合や発表会では全国大会に出場したり多くの部活動で市内大会3位以内といった結果で表彰を受けたりした。また、中学の部活動引退後も切れ目なく高校の部活動で活動するなど、6年間を見通した部活動運営ができた。生徒会活動においても、中学校独自の行事等を生徒が積極的に運営した。</p> <p>4 長期休業中の三者面談や日常的な家庭との連携を密にすることで、信頼関係を築くことができた。</p> <p>5 学校説明会や「附属中だより」、中学生の母校訪問など、生徒の様子を小学校に発信することができた。</p> <p>（課題）</p> <p>1 附属中1期生の高校卒業により、6年間を見通した中高一貫教育を総括し、より充実させる。</p> <p>2 中高一体となった校内組織を確立するため、事前に協議・調整を行い、共通認識をもって教育活動を推進していけるようにする。</p> <p>3 福高生から中学生へ話す機会を積極的に設けるなど、中高一貫教育校ならではのコラボを充実させる。</p> <p>4 中高、各分掌、各教科間でのOJTをさらに推進し、学校全体の教育力向上に向け、教職員の資質・能力の向上を通じて業務改善と効率化を図れるようにする。</p> <p>5 防災訓練等を通じて、生徒及び教職員が防災意識を高めていけるよう安心・安全な学校づくりに努めていく。</p>	<p>1 中高一貫教育の推進</p> <p>(1) 中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。</p> <p>(2) 附属中出身の高校卒業をふまえ、中高6年間で育む資質・能力を意識した中学3年間の指導の充実を図る。</p> <p>(3) 6年間を見通しながら生徒の発達段階に応じたきめ細かで、組織的な生徒指導体制を確立する。</p> <p>2 一人一人の学力の向上</p> <p>(1) 少人数授業等のきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を徹底するとともに、わかる喜びを実感させる。</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>(3) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>(4) 総合的な学習の時間「みらい楽」や体験活動を通して生徒自らが課題を設定し、探究の楽しさを実感させ、社会や地域の課題解決に主体的に取り組む姿勢を養う。</p> <p>3 「福高コラボ」の推進</p> <p>各種行事や本校卒業生と中学生との交流や協働活動を通して、異年齢との関わりから学び、刺激を受け、成長できるような、中高一貫教育校ならではのコラボを実施する。</p> <p>4 健やかな身体と豊かな人間性の育成</p> <p>学級活動や学校行事、部活動、伝統文化体験授業等を通して、心身を鍛えるとともに、仲間づくりの大切さに気づかせ、人権意識や規範意識、思いやりの心を育む。</p> <p>5 学校組織の改善と見直し</p> <p>教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のため、中高、各分掌、各教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。</p> <p>6 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、学校全体を見通した危険個所の早期発見や日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒・保護者・教職員が共通認識をもち、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>7 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。</p> <p>(2) 地域学習や地域連携活動等を通して、積極的に地域や外部機関と関わろうとする姿勢と行動力を育む。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題								
組織・運営	<p>【中高一貫教育の推進】 附属中出身の高校卒業をふまえ、中高6年間で育む資質・能力を意識した指導の充実を図る。また、生徒の発達段階に応じた、組織的な生徒指導体制を確立する。</p>	<p>6年間を見通しながら、少人数授業やICTの効果的な活用した授業等を通して、基礎的学力の定着の徹底及び探究的な視点からの学びを充実させる。</p> <p>【学校経営計画（実施段階）を指標とする。】 [年度末評価 A, B評価の教科数（全10教科）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9教科以上</td> <td>7・8教科</td> <td>5・6教科</td> <td>4教科以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	9教科以上	7・8教科	5・6教科	4教科以下	A	<p>【中高一貫教育に関わって】 ・年度末評価がA, Bの教科は、全10教科中9教科であった。 ・保護者が学力向上に対する取組が十分だと思っている割合は88.7%であった。 ・学力向上に関して生徒に比べ保護者は数値が低くなった。授業改善やICT活用等を通じて、一層保護者のニーズに応えていく必要がある。</p> <p>【組織改編に関わって】 ・自己の資質能力が向上したと思う割合は82.9%となった。 ・生徒が、本校を魅力的な学校だと思っている割合は92.5%であった。 ・生徒の結果から一定満足感が得られていることが窺える。その思いを受け一層組織としての動きを高め、共通認識を持って進めるなど効率的に教育の質を高めていく必要がある。</p> <p>【広報活動に関わって】 ・今年度実施した入学者選抜の志願者倍率は4年ぶりに2.0倍を上回った。 ・3年ぶりに6月の学校説明会を実施し、小学校5年生以下の児童に一定本校の魅力を伝えていくことができた。</p>
		A	B	C	D							
	9教科以上	7・8教科	5・6教科	4教科以下								
<p>【学校評価アンケート（保護者）を指標とする。】 [本校は学力向上に十分努めていると思う割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>59～40%</td> <td>39～25%</td> <td>24%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60%以上	59～40%	39～25%	24%以下	A			
A	B	C	D									
60%以上	59～40%	39～25%	24%以下									
<p>【教職員の資質・能力の向上の視点からの組織改善】 中高、各分掌、各教科間でのOJTをさらに推進し、教職員の資質・能力の向上を通じて業務改善と効率化を図れるようにする。</p>	<p>学校全体の教育力向上のため、中高、各分掌、各教科の在り方を含めた校内体制の確立及び業務の効率化を図っていく。</p> <p>【内部評価を指標とする。】 [自己の資質・能力が向上したと思う割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>59～40%</td> <td>39～25%</td> <td>24%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60%以上	59～40%	39～25%	24%以下	A		
A	B	C	D									
60%以上	59～40%	39～25%	24%以下									
<p>【広報活動の充実】 本校への理解や魅力発信及び教育活動の充実を図ることで、広報や生徒募集につなげていく。</p>	<p>学校説明会や「附属中だより」等を通じて、生徒の様子を外部に発信することで生徒募集につなげていく。</p> <p>【募集定員に対する志願者数の割合】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5倍以上</td> <td>2.0倍以上</td> <td>1.4倍以上</td> <td>1.4倍未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	2.5倍以上	2.0倍以上	1.4倍以上	1.4倍未満	B		
A	B	C	D									
2.5倍以上	2.0倍以上	1.4倍以上	1.4倍未満									
教務部	<p>学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。</p>	<p>学力向上のため学年部と連携し、ガイダンスを積極的に実施する。指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。</p> <p>[授業アンケート中の主体的な学習活動に関する質問に対する生徒の自己評価の平均]</p>	B	<p>授業の準備をし、意欲的に取り組んでいるかという質問の平均は3.3、自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいるかという質問の平均</p>								

		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.0~3.5</td> <td>2.5~2.9</td> <td>2.4以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下			均は3.4であった。新学習指導要領のもとでの評価を生かし、生徒に自分に必要なことは何かを考えさせ、学習に結び付けさせる指導を行っていく必要がある。
A	B	C	D										
3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下										
	高校と連携して、新教育課程における評価の在り方、ICT活用に向けての研修を進める。	<p>学習指導の改善が生徒の学習意欲・学力向上に繋がるよう、校内での研修の機会を増やし、各教科間や分掌、学校全体で教育力向上を目指す。 [学校評価アンケート（生徒）の学力向上に関する取組の上位の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>98%以上</td> <td>96%以上</td> <td>94%以上</td> <td>93%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	98%以上	96%以上	94%以上	93%以下	C		校内での研修は、高校と連携して多く行うことができ、主体的・対話的で深い学びの実現のために、各教科で授業研究を進めることができた。
A	B	C	D										
98%以上	96%以上	94%以上	93%以下										
生徒指導部	明るく元気に挨拶を交わし、身だしなみを整えることで、よりよい人間関係を築き、社会性を育む。	<p>挨拶、身だしなみについて意識を高められるように、日常的に教員から積極的に声掛けを行う。 [アンケートで、プラス評価の割合の平均値]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89%~70%</td> <td>69%~50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89%~70%	69%~50%	50%未満	B		・挨拶・身だしなみ等マナーについてのプラス評価の平均は82.8%であった。 ・通学マナーについてのプラス評価は62.1%であった。昨年同様であり低い結果である。 ・登下校時の自転車通学の啓発だけでなく、バスや電車の乗車マナーについても行動を振り返る機会をつくるなど意識させたい。 ・委員会活動や係活動に積極的に関わり、自ら行動することができたと解答した生徒は86.6%であった。しかし、委員会活動や係活動の仕事量に差があり、仕事内容に満足していない生徒もいた。来年度は、委員会活動や係活動を改善し充実した取組にしていきたい。
	A	B	C	D									
	90%以上	89%~70%	69%~50%	50%未満									
交通安全に関わるルールの遵守や通学マナーの向上に向けた指導を行い、交通事故防止に努める。	<p>交通事故の防止や、通学マナーの向上を呼びかけるなど啓発運動をする。 [通学路での見守り運動や正門での声かけ運動の回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40回以上</td> <td>30回</td> <td>20回</td> <td>10回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40回以上	30回	20回	10回以下	B	B		
A	B	C	D										
40回以上	30回	20回	10回以下										
「行動する力」「関わる力」を始め、5つの力の育成のため、生徒会執行部を中心とする委員会活動の活性化を図り、主体性と協調性を育む。	<p>生徒会執行部及び各委員会で学校生活の充実に向けた取組を行う。 [アンケートで、プラス評価の割合の平均値]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89%~70%</td> <td>69%~50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89%~70%	69%~50%	50%未満	B			
A	B	C	D										
90%以上	89%~70%	69%~50%	50%未満										
進路指導部	進路意識を向上させ、夢や希望を持って高校進学に臨むように指導する。	<p>高校進学後の展望と、大学進学、そして大学卒業後の進路の見通しを持たせる。 [進路学習後のアンケートで、高校・大学進学や将来の夢について“考えることができた”と答えた生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>65%以上 80%未満</td> <td>50%以上 65%未満</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満	B		・高校、大学進学や将来の夢について考えることができた生徒の割合は68%であった。今後は、外部講師による講演だけではなく、6年間を見通した具体的な目標を考える機会を設けたり、校内での継続的な取組を実践したりすることが必要である。
		A	B	C	D								
80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満										
<p>高等学校における進路指導の実際を知り、早期から大学進学や大学進学後の就職を意識したキャリア教育を推進する。</p>		B	B	・2年生は職場体験が実施できなかったため、キャリア講演会や企業訪問の計画（天候の影響で実施									

		<p>[大学進学を意識した進路学習の回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>4～5回</td> <td>2～3回</td> <td>1回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	4～5回	2～3回	1回以下	B	<p>することはできなかった)を通して、大学進学や就職について考えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生は昨年に引き続き、スタディマラソンや高校教員による入試問題の解説を通して、高校進学へ向けての心構えを意識させることができた。
A	B	C	D									
6回以上	4～5回	2～3回	1回以下									
	<p>職場体験学習などを計画し、職業観を身に付けさせるとともに将来地域社会に貢献する人材となるべき資質・能力・態度を身に付けさせる</p>	<p>職場体験に協力していただける事業所の開拓に当たる。</p> <p>[協力事業所数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20件以上</td> <td>19～15件</td> <td>14～10件</td> <td>9件以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	20件以上	19～15件	14～10件	9件以下	X	
A	B	C	D									
20件以上	19～15件	14～10件	9件以下									
保健部	<p>生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防、また、授業・部活動・登下校時の災害防止に努める。定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行し、健康、安全に関する注意喚起を行う。 ・新型コロナウイルス等感染症の拡大防止のため、啓発活動、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制で取り組むことができるよう、情報提供や提案を行う。 ・健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。 <p>[眼科 視力検査で裸眼視力がB・C・Dの生徒の受診率]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>59～40%</td> <td>39～20%</td> <td>19%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59～40%	39～20%	19%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策や健康診断等、時機に応じた「ほけんだより」「安全だより」を発行することができた。1月現在で「ほけんだより」16号、「安全だより」3号まで発行した。 ・毎朝、さくら連絡網による健康観察をチェックし、生徒の健康状態の把握に努めた。今後も気を緩めることなく感染症対策等に取り組んでいきたい。 ・「ほけんだより」で眼科の受診の重要性を周知するなど受診率の向上を図ったが受診率は51%であった。今後も受診率が上がるよう努力をしていきたい。 ・保健委員会では「新型コロナウイルス感染症と熱中症の予防」についての動画を作り、生徒への周知を図った。また「教室の二酸化炭素濃度チェック」を行い、感染症対策について意識向上に取り組んだ。また清掃道具の点検などを行い、校内の衛生管理に努めた。主体的に考え、実行に移していく委員会活動を行っていきたい。
A	B	C	D									
60%以上	59～40%	39～20%	19%未満									
	<p>環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室、トイレ、廊下等、校内の清掃、また感染症予防のための消毒を行い、校内の衛生管理に努める。 ・保健委員による校内の衛生管理活動等を企画して行い、校内美化に対する生徒の意識を高める。 <p>[保健委員会の年間活動回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>9～7回</td> <td>6～4回</td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回	9～7回	6～4回	3回未満	B	
A	B	C	D									
10回	9～7回	6～4回	3回未満									
人権教育部	<p>様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。</p>	<p>学年部や他分掌の連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。</p> <p>【学校評価アンケート】</p> <p>生徒の人権学習に対するプラス評価平均</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートに対する中校生のプラス評価は、90%以上であった。 								

		<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>75%以上</td><td>75%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	75%以上	75%未満			
A	B	C	D										
90%以上	80%以上	75%以上	75%未満										
	教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。	<p>教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。</p> <p>[教職員人権研修の実施]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>3回</td><td>2回</td><td>1回</td><td>0回</td></tr> </table>	A	B	C	D	3回	2回	1回	0回	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習は、6月と2月に1回行った。 ・教職員人権研修については、人権講演会に参加することや、放課後視聴覚教室で講師の教員向けの講演会を実施することで充実することができた。
A	B	C	D										
3回	2回	1回	0回										
総務企画部	<p>本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や小学生またその保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(附属中だより、附属中案内)やホームページによる情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらうよう広報誌(福中タイムズ)の配信、ホームページの更新等に努める。</p>	<p>在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページや福高タイムズ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。</p> <p>[学校評価アンケート(保護者用)問11「ホームページ等広報」におけるプラス評価の割合(全学年の平均値)]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>70%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	B	B	<p>80%後半のプラス評価を得ており、ホームページ及び福中タイムズという媒体を用いて本校の取組に関してしっかりと情報発信をすることができたと感じている。携帯端末でより見やすくHPを閲覧することができるようにHPのリニューアルを行うことができた。</p> <p>志願者数を82名まで伸ばすことができた。今年度は春の第1回説明会をコロナ禍後初めて実施することができ、内容を従来の形から授業体験中心の内容に変更したことで参加者の満足度がより高まったと感じている。</p>
		A	B	C	D								
	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満									
<p>ホームページや学校案内、広報誌(附属中だより)、小学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容や方法を改善していくことで、本校の魅力を正しく知ってもらうよう努め、志願者の増加を目指す。</p> <p>[志願者数]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>80人以上</td><td>75人以上</td><td>70人以上</td><td>70人未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	80人以上	75人以上	70人以上	70人未満	A				
A	B	C	D										
80人以上	75人以上	70人以上	70人未満										
<p>分掌内外の連携を密にし、高校と附属中学校の広報や生徒募集を有機的に機能させる。</p>	<p>部会を定期的開催し、また日常的に部内の意思疎通を図ることで、部全体が共通認識を持ち、協力体制のもと業務に取り組んでいけるよう努める。</p> <p>[分掌会議の実施回数(作業を除く)]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>40回以上</td><td>35回以上</td><td>30回以上</td><td>30回未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	40回以上	35回以上	30回以上	30回未満	B	<p>今年度も部内の連携を密に取る中で仕事を進めることができたと感じている。今後もこの体制を維持し、新しい発想も取り入れながら役割を果たしていきたい。</p>		
A	B	C	D										
40回以上	35回以上	30回以上	30回未満										
みらい探究部	<p>みらい楽において身につけさせたい力を明確にし、それらの力がどれくらい身についたのか確認し、今後改善していく部分を明確にすることで、生徒が主体的に学ぶ力を高める。</p>	<p>みらい楽において、課題研究に必要なスキル、研究の進め方や発表の仕方、評価の方法等を工夫・改善し、より系統的で深い学びとするための学習計画を作成する。</p> <p>[担当者の評価による計画と実施内容の達成度]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>70%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	B		<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の評価は80%であった。1年生は計画通り実施することができた。2年生は職場体験学習が実施できず、職業講話を行うなど補完する取組を実施した。3年生は、ゼロから企画を考え始めたのでほとんどのプロジェクトが予定内にプログラム実施すること
A	B	C	D										
90%以上	80%以上	70%以上	70%未満										

		<p>みらい楽における探究活動を通して課題発見・解決力、情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力など汎用的な力の育成を目指す。</p> <p>[生徒の自己評価によるスキル向上平均値]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0以上</td> <td>3.0以上</td> <td>2.0以上</td> <td>2.0未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	4.0以上	3.0以上	2.0以上	2.0未満	C	B	<p>ができなかった。2、3年生の学習内容の接続を意識したカリキュラムを実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒評価1年生+2.4、2年生+1.6、3年生1.9、中学部計2.0 <p>どの項目もスキル向上は見られたが、もともと年度当初の探究スキルも高いことから、1年間の伸長率で測るとC評価となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年5回実施した土曜講座は、中学生向けに30講座を展開することができた。述べ129人の中学生が土曜講座に参加し、高校生と一緒に主体的に学ぶことができた。 <p>次年度はさらに魅力的な講座数を増やして、生徒に多様な学びの場を提供していきたい。</p>
A	B	C	D										
4.0以上	3.0以上	2.0以上	2.0未満										
	<p>土曜講座を通して、学校における授業の深化・発展や基礎補充、地域における多様な学習や体験等ができる豊かな学びの環境を提供する。</p>	<p>生徒のさらなる成長を支え、興味を持って主体的に学習に向かう力を向上させるために土曜講座を活用し、学びの環境を提供する。</p> <p>[中学生が対象となった講座数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30以上</td> <td>25以上</td> <td>20以上</td> <td>20未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	30以上	25以上	20以上	20未満	A		
A	B	C	D										
30以上	25以上	20以上	20未満										
図書 視聴覚部	<p>読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。</p>	<p>豊かな読書活動を推進するために、図書委員会が図書館と学級の架け橋となるよう支援する。</p> <p>学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。</p> <p>[授業での図書館活用回数（みらい楽を除く）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60回以上</td> <td>50～59回</td> <td>40～49回</td> <td>39回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60回以上	50～59回	40～49回	39回以下	D		<p>探究活動以外では3つの教科で図書館活用があった。ICT活用について図書館でできることを模索しながら今後も教科や分掌と連携し図書館活用の幅を広げていきたい。</p> <p>[みらい楽以外の活用回数28回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら連絡網」は学校全体での活用がさらに進み、状況に応じた情報発信を行うことができた。しかし情報量が多くなりすぎると内容確認が後回しになるという懸念もあり、活用方法について検討していく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・P T A活動については、徐々に制限が緩和されているとはいえ、保護者の方に直接参加していただく機会は少なかった。そのような中ではあったが、本部役員の方を中心にP T A活動を円滑に運営していただくことができた。 <p>[P T A活動に対するプラス評価66.7%]</p>
	A	B	C	D									
60回以上	50～59回	40～49回	39回以下										
	<p>P T A活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。</p>	<p>P T A活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やP T A活動について「お知らせメール（さくら連絡網）」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。</p> <p>[保護者対象学校評価アンケートのP T A活動に対するプラス評価]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>60～69%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	60%未満	C		
A	B	C	D										
80%以上	70～79%	60～69%	60%未満										

第1学年	<p>中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活を送れるような学級経営を行う。</p>	<p>高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 [学校評価アンケートにおける「福高コラボ」に対する良い評価の割合]</p> <table border="1" data-bbox="840 276 1413 341"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%	70%	60%	50%	D	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生と一緒に福高祭を初めて体験し、3学年の中では「福高コラボ」に対する良い評価の割合が57.9%と最も高かったが、入学前にイメージしていたほどの関わりがないと感じた生徒が多かった。
A	B	C	D									
80%	70%	60%	50%									
	<p>総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な立場の考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。 ※1年生の重点評価項目 「様々な角度から問題をとらえようとすることができたか」</p>	<p>総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。 [生徒の「自己評価表」で1年生の重点評価項目において目標評価基準（B）に到達した生徒の割合]</p> <table border="1" data-bbox="840 504 1413 569"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%</td> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%	80%	70%	60%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「みらい楽Ⅰ」では、探究の基礎を学ぶ期間として、調べ方や引用の仕方、まとめ方などを学習し、そのまとめとして、統計グラフコンクールに応募する作品作りを行った。現在、資料を集めて考察を始めているが、必要な視点を網羅できているか自信が持てない部分があると感じた。意見交換などの機会を取り入れたい。
A	B	C	D									
90%	80%	70%	60%									
第2学年	<p>中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活を送れるような学級経営を行う。</p>	<p>高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 [学校評価アンケートにおける「福高コラボ」に対する良い評価の割合]</p> <table border="1" data-bbox="866 861 1440 927"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%	70%	60%	50%	D	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の時は、高校生と一緒に福高祭が実施できなかったため、今年度、初めて高校生と一緒に福高祭を体験し、大きな集団を引っ張る高校生リーダーの姿や高行事以外での交流の機会を持つことができず、「福高コラボ」が充実しているという実感にはつながりにくかった。
A	B	C	D									
80%	70%	60%	50%									
	<p>総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な立場の考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。 ※2年生の重点評価項目 「仮説を検証し、解決策を練り上げることができたか」</p>	<p>総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。 [生徒の「自己評価表」で2年生の重点評価項目において目標評価基準（B）に到達した生徒の割合]</p> <table border="1" data-bbox="840 1090 1413 1155"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%</td> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%	80%	70%	60%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習を終えたのちに課題探究活動に入ったが、仮説を立てることの重要性をよく理解し、検証方法について考えることができた。解決策を練り上げるころまでは到達していないが、関心と問題意識を高めることができた。
A	B	C	D									
90%	80%	70%	60%									
第3学年	<p>中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活を送れるような学級経営を行う。</p>	<p>高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 [学校評価アンケートにおける「福高コラボ」に対する良い評価の割合]</p> <table border="1" data-bbox="840 1417 1413 1482"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%	70%	60%	50%	D	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季講習では、高校の教員から入試問題の解説を聞き、中学校のうちにつけるべき力や高校進学を視野に伸ばすべき力について意識をするきっかけとなった。また、web配信している「福中タイムズ」の記事として、高校の先輩との対
A	B	C	D									
80%	70%	60%	50%									

<p>総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な立場の考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。 ※3年生の重点評価項目 「どのようにすれば社会に貢献できるのかという視点で取り組めたか」、「課題を最後まであきらめず取組やり遂げることができたか」</p>	<p>総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。 [生徒の「自己評価表」で3年生の重点評価項目において両方の項目で目標評価基準（B）に到達した生徒の割合]</p> <table border="1" data-bbox="842 308 1413 373"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90%</td> <td>80%</td> <td>70%</td> <td>60%</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%	80%	70%	60%	<p>D</p>	<p>D 談や附属中卒業生の活躍を伝えるなど、直接的な触れ合いではない「福高コラボ」にも取り組んだが、実感にはつながりにくかった。 ・「課題を最後まであきらめずに取り組みやり遂げることができたか」の項目については80%を超えたものの、「どのようにすれば社会に貢献できるのかという視点で取り組めたか」については、58%程度と低かった。生徒は、本当に社会貢献につながるのかと慎重に考え、良いものを作るためにはもっと試行錯誤の時間を含んだ計画性が必要なことを痛感しており評価以上の学びはあったと考える。</p>
A	B	C	D								
90%	80%	70%	60%								
<p>事務部 安心・安全な学校を維持し、管理を徹底する。</p>	<p>危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。 [危険箇所に対する改修率]</p> <table border="1" data-bbox="842 730 1406 798"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	<p>B</p>	<p>・学校全体を見通した危険箇所を早期に発見し、対応を心がけた。また、日頃の環境整備により、美化及び危険箇所の早期発見に努めた。</p>
A	B	C	D								
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満								
<p>学校経営方針を推進するため各分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。</p>	<p>各分掌・教科と連携を密にし、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し本校教育に即した予算計画を立案し、確実に執行する。 [教科・分掌の予算執行満足度]</p> <table border="1" data-bbox="842 962 1406 1029"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	<p>B</p>	<p>B ・大規模改修工事では、安全安心を第一に教育活動が滞ることのないよう連絡調整し無事終了した。関連する工事や物品調達等について、教育庁に予算要求を行い執行した。また、新たな暖房空調設備の運用について策定した。</p>
A	B	C	D								
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満								
<p>丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。</p>	<p>府民との窓口になる対応を丁寧、的確及び迅速に行い、円滑な学校運営に努める。</p>	<p>B</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対策として、情報機器の調達、エアコン運用、必要物品の調達を可能な限り早期に対応を行った。 ・運営費予算執行は、要望を的確に聞き取り、直ちに効果的及び効率的な執行を心がけた。光熱費の高騰で予算が厳しい中、可能な範囲で要望物品等の調達を行った。また、多数の外部講師への謝礼旅費の支払いを滞りなく行った。 ・窓口・電話対応は、親切丁寧、迅速及び正確に行い、円滑な学校運営に努めた。</p>								

国語科	主体的・対話的で深い学びからの授業改善や、ICTの活用などにより、生徒が意欲的に思考し、表現しようと思える指導の工夫改善に努める。	既習の事項を生かした表現活動を充実させ、知識・技能の定着を図る。 [「授業中に「分かった」「できた」と思うことがよくある」の割合] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.3以上</td> <td>3.0以上</td> <td>2.9以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下	B	C	2年生の「書くこと」の単元で公開授業と合評会を行った。主体的に取り組めるような単元のゴールの設定、教科の見方・考え方をどのように見つけるか、未習の内容にどのようにつなげるか等について学ぶことができた。 授業に意欲的に取り組んでいるという項目の平均は3.2であった。合評会でも取り上げられたが、意欲を高めるような言語活動の設定や提示の仕方等について、研究が必要である。
	A	B	C	D									
3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下										
生徒の言語文化に対する関心を深め、基本的な語彙力等の定着を図る。	単元の中で重点的に扱う指導事項を検討し、意欲を高める言語活動を設定する。小テストなどを活用して、家庭学習の方法を改善させる。 [「授業に意欲的に取り組んでいる」の割合] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.3以上</td> <td>3.0以上</td> <td>2.9以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下	C			
A	B	C	D										
3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下										
社会科	社会的事象に対する関心・意欲を高め、生きて働く知識・技能を習得させる。	授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、学力向上につなげていく。習得した知識・技能が生きて働く力となるように、活用の場面を適切に設定していく。 [授業アンケートの中の「先生の教え方に工夫が感じられ、自分自身の理解を深められている」に対する生徒の自己評価の平均] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.0～3.5</td> <td>2.5～2.9</td> <td>2.4以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下	A	A	・タブレットを活用して、写真や資料を提示し、気づきや疑問を出し合うことで課題を共有し、知識や技能を習得させるだけではない深い学びとなる授業を意識した。 ・新聞スクラップや新聞作成の取組を通して、社会的事象への関心を高め、学んだ内容を表現する機会を設けた。 ・全ての単元・授業で学習課題を設定して授業を展開し、社会的事象の意味や相互の関係を考察したり、話し合ったりし、解決に向けて選択・判断する機会を設けた。
	A	B	C	D									
3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下										
生徒が「見方・考え方」を働かせる機会を適切に設定し、思考力・判断力・表現力を高める。	様々な課題（グローバルな課題から地域課題まで）を主体的・協働的に発見・探究するための学習機会を設ける。 [各学年の課題解決型授業の実施回数] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12回以上</td> <td>11～9回</td> <td>8～6回</td> <td>5回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	12回以上	11～9回	8～6回	5回以下	A			
A	B	C	D										
12回以上	11～9回	8～6回	5回以下										
数学科	主体的な態度で学習に励む生徒を育成し、社会の変化に対応できる学力を養成する。	学ぶことやわかることが楽しいと感じられるように、主体的に考えられる機会を大切に授業を展開する。 [学ぶことやわかることが楽しいと感じる生徒の割合] <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>70%～50%</td> <td>50%～30%</td> <td>30%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	70%以上	70%～50%	50%～30%	30%以下	A	A	・生徒アンケートの結果から、数学が好き70.4%、数学を学ぶことが楽しい83.6%であった。授業で扱う内容の難易度は高いが、普段から友達との相談活動を促すことを引き出した。 ・プロジェクターや電子黒板を使い、授業で効果的にICTの活用ができた。
	A	B	C	D									
70%以上	70%～50%	50%～30%	30%以下										
学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。	デジタル教科書を使った授業を始めとし、ICTの活用についての交流を図り、効果的な使い方を実践しながら交流を図る。	B											

		A	B	C	D											
		図れた。	まあまあ図れた。	あまり図れなかった。	図れなかった。											
理科	質の高い学力の定着を図るための集団づくり・環境づくりに努める。	<p>学習の達成度を的確に把握して評価を行う。また、生徒相互の討議や教え合い学習など生徒自らが学ぶ授業づくりに努める。</p> <p>観察や実験などを小グループで行い、すべての生徒が学習活動に参加しやすい条件づくりに努める。</p> <p>[グループ学習等を取り入れた授業の実施回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>週3以上</td> <td>週2以上</td> <td>月4以上</td> <td>月2以下</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	週3以上	週2以上	月4以上	月2以下	A	B	<p>教科書の学習内容の定着だけではなく、先人たちの考え方や自然の見方について学んだり、交流することで理科の面白さを伝えようと努力した。そのため、実験結果をもとにさらに深い考えができるような展開を行った。</p> <p>教科書の写真だけではなく、映像や具体物を用いての展開を行ったが、それにより進度が遅くなることもあり、授業の中での効果的な活用が今後の課題となった。</p>
	A	B	C	D												
週3以上	週2以上	月4以上	月2以下													
中高6年間を見通しながら、生徒の興味、関心、意欲を高め、主体的に学ぶ態度を育成する。	<p>高校で使用する教材・教具の活用に加え、ICT等も活用しながら、観察・実験を多く取り入れた授業を積極的に行い、理科への興味・関心を高める。</p> <p>[理科の学習が「好き」または「まあ好き」の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～90%</td> <td>89～80%</td> <td>80%未満</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	95%以上	94～90%	89～80%	80%未満	B			
A	B	C	D													
95%以上	94～90%	89～80%	80%未満													
音楽科	歌唱・器楽の演奏能力の向上を図るとともに、創作・鑑賞の知識やその基礎力の充実を目指す。	<p>[授業アンケートで「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下	A	B	<p>授業アンケートの結果は85%であったが、他の項目に比べると低い数値なので、「分かった」「できた」と思える授業作りを更にすすめていきたい。</p> <p>鑑賞は各学年3曲以上行ったが、3年間でより多くの音楽に触れることができるように授業展開の工夫を行いたい。</p>
	A	B	C	D												
80%以上	79～60%	59～40%	39%以下													
	<p>創作に意欲を持って取り組み作品を作ったり演奏できるように、楽曲の背景を理解し鑑賞する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5曲以上</td> <td>4～3曲</td> <td>2曲</td> <td>1曲</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	5曲以上	4～3曲	2曲	1曲	B			
A	B	C	D													
5曲以上	4～3曲	2曲	1曲													
美術科	作品制作や鑑賞を通して、思考力、判断力、表現力を育成するため、ICTを活用した授業改善を推進する。	<p>思考力、判断力、表現力を育成するために「鑑賞」や「表現」の授業でICT活用した授業改善を行い、授業に対する意欲関心を高める。</p> <p>[授業アンケートで授業中の説明や指示は分かりやすく、意欲関心が沸く」と回答した生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～70%</td> <td>69%以下</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	69%以下	B	B	<p>電子黒板が美術室に設置され、表現の授業の中でも電子黒板での説明が可能になった。アンケートでは、87.5%が「意欲関心が沸く」と回答したが、残り12.5%の生徒の心にも響く授業にするために授業改善を行っていきたい。</p> <p>入学時、興味がないと答えた生徒が17名いたが、1年間、屏風鑑賞や黒板アート鑑賞など様々な鑑賞に取り組んだ結果、興味がないと答えた生徒が3名になった。興味がないと答えた生徒が興味を持</p>
	A	B	C	D												
90%以上	89～80%	79～70%	69%以下													
	美術作品を鑑賞する喜びを味わせ、感じ取る力」や「思考力」「言葉による表現力」を育成する。	<p>対話型鑑賞等いろいろな方法での鑑賞を行い、「見方、感じ方を深める鑑賞」に興味関心を持たせる。</p> <p>[学年末アンケートで鑑賞に興味があると答えた割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～70%</td> <td>69%以下</td> </tr> </tbody> </table>				A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	69%以下	A		
A	B	C	D													
90%以上	89～80%	79～70%	69%以下													

					てる方法を模索していきたい。								
保健体育科	<p><体力の向上を図る> 本校生徒の体力は、京都府平均を下回る種目があるため、体育授業および体育的行事により体力の向上を目指す。</p>	<p>年間を通して体力向上をねらいとし、補強運動やトレーニング的な活動及びストレッチや柔軟運動を意識した授業を推進する。 [2学期以降の授業内にスポーツテストを行い、4月の測定時から総合点が上昇した人数の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%以上</td> <td>60~69%</td> <td>50~59%</td> <td>0%~49%</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	70%以上	60~69%	50~59%	0%~49%	B	A	<p>全体で見ると60%という結果になった。男女別で見ると男子が65%、女子が57%であった。授業ごとに導入として補強運動を取り入れたり、長期休業中の課題としてトレーニング課題を与えたりしたが、なかなか活動量の確保が難しく、継続的な取組を行う必要がある。</p>
A	B	C	D										
70%以上	60~69%	50~59%	0%~49%										
	<p><健康・安全教育の推進> 体育及び体育的行事の事故防止を図る。</p>	<p>体育・保健の授業を通して、自らの健康と安全に対する意識の向上を図る。 [1年間の事故件数（通院を伴うもの）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0~5件</td> <td>6~10件</td> <td>11~15件</td> <td>20件以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0~5件	6~10件	11~15件	20件以上	A	<p>体育及び体育的行事の事故件数は3件であり、球技大会での怪我が多かった。また、数値には含まれていないが、部活動でも3件事故（怪我）が報告されている。大きな怪我はないが、事故防止とともに初期対応を丁寧に行っていきたい。</p>	
A	B	C	D										
0~5件	6~10件	11~15件	20件以上										
	<p><ICTの有効的な活用> 一人一台タブレットを効果的に活用し、授業改善を図る。</p>	<p>体育の授業で個人の動きを動画で撮影して視覚的フィードバックを与えたり、保健の授業で映像資料を活用するなど、ICTを積極的に活用して、生徒の学習内容の理解度を高め、技能の向上を図る。 [生徒にアンケートを実施し、「授業でICTが効果的に活用されていた」の項目で、肯定的に回答した人数の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>80~89%</td> <td>70~79%</td> <td>0~69%</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	80~89%	70~79%	0~69%	A	<p>アンケートの結果、96%の生徒が肯定的な回答をした。授業で動画撮影をして、その動画をもとに改善点などを分析してまた練習するといった流れが技術向上にもつながったと思える。保健の授業で思っていたよりも活用できなかったため、今後も実技と保健の両方で意識的に活用していきたい。</p>	
A	B	C	D										
90%以上	80~89%	70~79%	0~69%										
技術・家庭科	<p>生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する能力資質を育む。（生活と技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けさせる。）</p>	<p>生徒に身に付けさせたい課題に関する観点と尺度を明確にした学習到達度や評価基準（実物例やルーブリック等）を示し、技能の習得に生かす。 [課題に対する実物例やルーブリック等の作成割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79~60%</td> <td>59~40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79~60%	59~40%	39%以下	A	A	<p>様々な実習において、実物例とルーブリックなどを示すことで、生徒が先を見通し、自分から実習に取り組むことができた。また、互いに教え合ったり、他者の作品を見合ったりすることで、自身の制作に活かすことができた。</p>
A	B	C	D										
80%以上	79~60%	59~40%	39%以下										
英語科	<p>中高6年間を見通して、英語4技能5領域を総合的に育成する学習指導を行い、情</p>	<p>単元ごとに目標を明示し、単元の終わりに生徒が自らの学習を振り返る機会を設ける。</p>			<p>・2学期の授業評価アンケート 「自分の学習活動を振り返り、工</p>								

	報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするなど、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	[2学期授業評価アンケート「自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいる。」の割合] <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.5～3.2</td> <td>3.1～2.8</td> <td>2.8未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.5～3.2	3.1～2.8	2.8未満	B	夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいる。」の各学年の評価での平均が4点満点中3.4点であった。今後も定期試験だけでなく、単元テストやパフォーマンステストを計画的に実施し、生徒自身が目標を設定したり学習を振り返ったりする機会を設ける。また、英語を苦手とする生徒への個別支援も行っていく。
A	B	C	D									
3.6以上	3.5～3.2	3.1～2.8	2.8未満									
	コミュニケーションを行う場面や目的、状況などに応じて、外国語の知識および技能を活用して自分の気持ちや考えを簡単な言葉で表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション活動の場を多く展開する。 [パフォーマンステストの振り返りアンケート「コミュニケーションを行う場面や目的、状況などに応じて、自分の気持ちや考えを簡単な言葉で表現したり伝え合ったりすることができた」の割合] <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	B	・アンケートで80%の生徒が「単元で習った表現を活用して気持ちや考えを伝えることができた」と答えた。今後も、知識・技能を習得するだけでなく、目的・場面・状況に応じてそれらを活用する「思考力、判断力、表現力」の育成を目指し、授業改善を行う。
A	B	C	D									
90%以上	80%以上	70%以上	70%未満									
道徳	道徳の授業を中心に、自分自身を見つめ、人間としての生き方や周りの仲間や社会との関わりについて考え、表現する経験を積ませる。	自分自身や自らの属する集団について考え、表現する経験を重ねることで、より良い環境を自ら作っていきけるようにする。 [学校評価アンケートにおける、自らの属する集団や自分自身についての、肯定的な評価の割合] <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>90%以上</td> <td>85%以上</td> <td>85%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	90%以上	85%以上	85%未満	C	魅力ある学校、学校への誇りについての肯定的な評価の割合は高かったが、学校への誇りの項目については昨年度と比べると低下が見られた。道徳の授業を中心に、引き続き教育活動全体で道徳教育を進め、より良い環境を自分自身や自らの所属集団で作っていきけるようにすることが求められる。
A	B	C	D									
95%以上	90%以上	85%以上	85%未満									
	教科書を用いて、それぞれの内容項目について道徳の授業を行い、評価が円滑に行われるようにする。	担任教師と道徳担当が連携し、指導と評価が円滑に行われるようにする。 [授業内容や評価についての情報交流] <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>25回以上</td> <td>20回以上</td> <td>15回以上</td> <td>15回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	25回以上	20回以上	15回以上	15回未満	A	道徳の授業については、すべての内容項目について学べるように、担任教師との情報交流を行った。
A	B	C	D									
25回以上	20回以上	15回以上	15回未満									

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・附属中の出身者で、進学等で府外に出たとしてもUターン等で将来地域活性化を進めていきけるような人材を育てていくことが重要である。 ・各種発表会等にOBが来てコメントをするなど、OBと触れ合うことで、生徒にとっても3年後、10年後の姿をイメージできる。また、OBにとっても話ができる場があることになる。積極的にOBと関わりながら成長していきけるような場を設けていくことが重要である。 ・福知山高校は中高という縦のつながりの強みがある。一つの学校としていろんな行事や部活動等を合同で行うことで、一歩踏み込んだ関わりを持ち連携を深めてほしい。 ・中高のコラボの機会を多く設定することも大切だが、中高コラボについて生徒と保護者、教職員との意識のズレがあるのかもしれない。その解消に向けて、生徒に議論の場を作ったり生徒会でコラボを試みたりして生徒自身が動いて中高コラボについてのニーズやミスマッチがないのかを検証してみてもよい。 ・キャリア教育の観点から地元企業で行われているものづくりのプロセスを見せる機会を持つことは重要である。ものづくりを各社思いを込めてやっ
-------------------------	---

	<p>ているので、実際にその場面に立ち会うことで思いを共感することができるとともに、地域のよさも感じるができる。また、発達段階において現場が危ない場合は、現場に行かなくてもタブレットで見ることも可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が意図的に仕組まなくとも、移動中に高校の教室の前を通過して黒板をみるなど動線を同じにするだけでも中高連携の意識が強まるはずである。 ・広報についての発信は、教職員のみでなく本校や分校の生徒が記事をかいたり写真を取ったりして主体的に発信すると、違った観点から受け手側にアピールできるはずである。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を通して人権意識や規範意識、思いやりの心を育み、健やかな身体と豊かな人間性を育成していく。 ・学校組織の改善と見直しの視点から学校全体の教育力向上に向け、教職員の資質・能力の向上を通じて業務改善と効率化を図っていく。 ・中高一貫教育の推進のため、中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。 ・ICTを効果的に活用した授業改善を推進していくとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業展開をし、思考力、判断力、表現力を育成していく。 ・総合的な学習の時間「みらい楽」や体験活動を通じて、社会や地域の課題解決に主体的に取り組む姿勢を身に付けるとともに、社会貢献といった経験を通じて自己肯定感を高めていけるようにする。 ・高校生との関わりから刺激を受け、様々な学びを通じて成長できるような「福高コラボ」を一層推進していく。 ・適正な学校運営及び学校防災や感染症対応など危機管理体制を確立し、安心・安全な学校作りを推進していく。 ・家庭・地域・関係機関との連携強化及び地域連携活動等の活発化を通じて、相互との信頼関係を築いていく。